

# 第37回児童生徒 読書感想文コンクール

## 小学校の部 5年生

参加数 58点

▶最優秀賞/森島 望さん  
(弟子屈小)



選んだ本  
クララ、いっしょに走ろう

▶優秀賞/  
番場 美祐さん(弟子屈小)  
深井 杏香さん(奥春別小)  
高橋 史玖君(昭栄小)

## 小学校の部 6年生

参加数 69点

▶最優秀賞/山崎 美玖さん  
(弟子屈小)



選んだ本  
わたしと小鳥とすずと

▶優秀賞/  
藤田 一輝君(弟子屈小)  
朝日 瑠衣さん(弟子屈小)  
土屋 柁君(弟子屈小)  
阪口 貴明君(奥春別小)

## 高等学校の部

参加数 119点

▶最優秀賞/大浦 彩織さん  
(弟子屈高2年)



選んだ本  
ありがとう

▶優秀賞/  
小林 未佳さん(弟高1年)  
秋山 翼君(弟高2年)  
小澤 奏さん(弟高2年)

今年度で37回目を数える児童生徒読書感想文コンクールに、今回も優秀な作品が数多く寄せられました。

参加総数703点(小学校1年生~高校生)のうち、27点が入賞作品に選ばれました。各賞を受賞した児童・生徒の皆さんを紹介します。

また今月から、各部門の最優秀作品を順次紹介していきます。

※コンクールの審査対象は小学校3年生以上。

### ■審査

次の各学校の先生方に審査をお願いしました。

(敬称略・( )内は学校名)

### ●小学校の部

磯里 道子(弟子屈小)/敦澤 幾子(川湯小)/大庭 菜穂(和琴小)/山本 学実(美留和小)/半田 寛敏(奥春別小)/中川 規子(昭栄小)

### ●中学校・高等学校の部

早川 将光(弟子屈中)/小杉山 真理(川湯中)/松田 祥(弟子屈高)



## 小学校の部 3年生

参加数 68点

▶最優秀賞/阿部 宏紀君  
(美留和小)



選んだ本  
モチモチの木

▶優秀賞/  
嶋津 希穂さん(弟子屈小)  
三田村 優音君(昭栄小)

## 小学校の部 4年生

参加数 60点

▶最優秀賞/集隼 千寛君  
(弟子屈小)



選んだ本  
おこだでませんように

▶優秀賞/  
下谷 愛美さん(川湯小)  
原田 愛さん(川湯小)

## 中学校の部 1年生

参加数 68点

▶最優秀賞/西郷 綾夏さん  
(弟子屈中)



選んだ本  
きみの友だち

▶優秀賞/  
上野 絵里奈さん(弟子屈中)  
鈴木 理美さん(川湯中)

## 中学校の部 2年生

参加数 66点

▶最優秀賞/松田 幹哉君  
(川湯中)



選んだ本  
挫折と挑戦

▶優秀賞/  
桐木 頼子さん(弟子屈中)

## 中学校の部 3年生

参加数 70点

▶最優秀賞/池上 温人君  
(川湯中)



選んだ本  
さいはての島へゲド戦記3

▶優秀賞/  
小濱 樹君(弟子屈中)  
江上 潔香さん(弟子屈中)

### ■小学校3年生の部 最優秀賞

#### モチモチの木

美留和小学校 阿部 宏紀君

ぼくは、朝早く起きた時、また真つ暗な  
それは、おへひょうな所です。なぜなら、  
豆太は一人でせっちゃんに行けないし、ぼ  
くも五才の時まで一人でトイレに行けな  
かったからです。

ぼくは、朝早く起きた時、また真つ暗な  
ので、お母さんが先に下に行っていない  
と、こわく行って行けません。自分の周り全部  
の所からお化けが出てくる、こわい、こわ  
えてしまうからです。それから、一年生の  
時たんにんの先生がいなくて、一人で教  
室にいられたこともありません。後ろ  
からお化けが出そうだからです。そんな  
時は、ぜったいに後ろを見ませんでした。  
だから、夜一人でせっちゃんに行きた  
くはない豆太の気持ちがとてもよくわか  
ります。モチモチの木は、夜になるとこ  
わすです。きつとモチモチの木は、豆太  
とつて木にお化けのような手と足があるよ  
うに見えるんだと思います。ぼくも、夜  
トイレの前にモチモチの木があったらこ  
わいなあと思います。だから豆太の気持  
ちがわかるのです。

ぼくは、豆太がモチモチの木に対して、  
いばっているのが好きです。なぜなら、豆  
太の昼間と夜のたい度が全くちがって  
面白かったからです。きつと昼間は、  
「やーいへへへへへへへ。お前はなんで、そ  
んな所に立っているんだ。」

とたい度が大きくなって、夜は、  
「木い。もう悪くないから、ゆるして  
くれな。ごめんさー。」  
と、たい度が小さくなっていくと思  
います。

ぼくは、豆太が医者様をよびに行  
った  
場面の時に、  
「へえ。勇氣あるう。」  
と、口に出してしまいました。それは、豆太  
はおへひょうなのに、冬の真夜中にねま  
き  
のままはだしで、寒くてこわい中を走  
つ  
てお医者さんをよびに行ってきたから  
です。

ぼくは、豆太は、医者様をよびに行  
たのでしょつか。それは、豆太は、じ  
ま  
まのことが大好きだからだと思います。だ  
か  
らぼくは、豆太が夜道なのに、医者様を  
よ  
びに行けたのかなと思います。  
ぼくは、勇氣を、友達とケンカをして仲  
直りする時に使いました。  
「うめんね。」  
と、言いに行く時は、すぐは、すかし  
か  
ったから友達の家の前で長い時間行  
つ  
たりしてまよっていました。それでも、勇  
氣  
をかりしぼくは、あやまりに行きま  
し  
た。

ぼくは、豆太になりたいです。なぜ  
な  
ら、勇氣がとてもあるからです。ぼくも  
こ  
わがりたけど、豆太みたいにぞこ  
こ  
と、勇氣を出したいです。  
(寸評)宏紀くんは、おへひょうな自分のこと

### ■小学校4年生の部 最優秀賞

#### いいと思ってやったのに

弟子屈小学校 集隼 千寛君

「自分では、いいと思ってやったのに、  
そ  
うではなくなってしまうことがある。」  
ぼ  
くが、くだん思っていたことが、今回  
読  
んだ本にも書かれていました。だから、  
ぼ  
くは本の中の男の子の気持ちが「よく  
わ  
かるなあ」と思いました。

主人公の男の子はせっかく折ってあげ  
た  
折り紙を「くちやくちやくはいやだ。」と妹  
に  
言われてしまいました。妹は泣き出し、  
男  
の子はお母さんに怒られてしまいま  
す。  
ぼくも、よく弟とケンカをします。ぼ  
く  
が悪い時もあるけれど、弟のためにし  
て  
あげたのに、弟が気に入らなくてケン  
カ  
になり、ぼくがお母さんに怒られるこ  
と  
もあります。その時は、「ぼくが悪いん  
じ  
ゃないの。」と思います。

他にも、友達が喜んでくれると思っ  
て  
虫を見せたら、いやがられてしまっ  
た  
と、「ぼく」と、男の子の気持ち  
が  
わかる場面がいっぱいありました。  
こ  
でも、男の子の良くないなと思っ  
た  
こと

※そのほかの最優秀作品に  
ついては、来月以降順次  
紹介していきます。

